

令和 5 年度
宮崎県職員採用試験【大学卒業程度（水産）】

専門論文試験課題

<課題>

本県では、令和 3 年に策定した「第六次宮崎県水産業・漁村振興長期計画」において、10年後の将来像として「持続的に成長する水産業と多様性にあふれた魅力ある漁村」を掲げています。この将来像を実現するために重要なことのひとつとして、水産資源の持続的な利用が挙げられます。水産資源を持続的に利用するためには、資源の状況に応じて合理的に利用・管理していく必要があるため、本県では、県独自の評価体制を構築し、これまでに26種の水産資源の状況进行评估してきました。

以下の表は、令和 4 年度に行った資源評価結果の抜粋ですが、この中からあなたが注目する 2 種を選定し、その選定理由を述べた上で、それぞれの資源を持続的に利用するために必要な取組について、増殖、資源管理、流通・加工・販売の視点を踏まえながら、あなたの考えを述べなさい。

水産資源の名称	資源の状況※	令和 3 年の漁獲量・金額
アマダイ類	中位・増加	18.7 トン ・ 27 百万円
カサゴ	低位・横ばい	6.8 トン ・ 4.6 百万円
イセエビ	中位・横ばい	57.1 トン ・ 274 百万円
ヒラメ	低位・減少	15.1 トン ・ 19.9 百万円
マダイ	高位・増加	68.5 トン ・ 39 百万円

※ 概ね過去20年以上の期間で見た現状の資源量の多寡の水準（高位＞中位＞低位）
と直近 5 年間で見た資源量の増減傾向（増加、横ばい、減少）